



まなびやまと



No.29
平成28(2016)年3月
大和市教育委員会

読書の輪を広げて 読書フェスティバル 大和市教育委員会・指導室

11月1日(日)

渋谷学習センターにおいて読書フェスティバルが開催されました。多目的ホールでは、市内小中学校の読書感想文コンクール表彰式が行われ、教育委員会より各受賞者へ賞状が授与されました。その後、代表者2人が、受賞作品の読書感想文を朗読し、子どもたちの豊かな感性と表現力に会場から大きな拍手が起きました。また、「梢の会」による朗読会が行われ、情感あふれる声に皆、物語の世界に引き込まれていました。



表彰式の前後には学校司書や市立図書館によるコーナーも設置され、3階の図書館では、壁に貼られたクイズの答えを本の中から探すゲーム、キッズコーナーや講習室では、絵本を題材にしたワークショップが展開され、親子



が紹介してほしいです」という声が聞かれました。

大和市では読書活動の推進を重点施策としており、学校や地域で本に親しむ様々な取組みが行われ、子どもたちの読書活動が年々充実してきています。

使いやすい学校図書館へ 学校図書館管理システム 大和市立南林間中学校

学校図書館では、蔵書管理が電算化されました。南林間中学校では昼休みの開始を告げるチャイムが鳴ると、学校図書館に生徒が集まってくる。図書委員は最初



来て、コンピュータとバーコードリーダーを準備し、窓口に座ります。今まではカードに書名と返却予定日を手書きで記入し

ていましたが、今はバーコードリーダーを使って氏名と書名のバーコードを読み取るだけで手続きができます。本を借りに来た生徒は「前よりも借りやすくなりました」と話していました。貸出し冊数や返却期間の管理も、これまでは一枚ずつカードをチェックすることで行われていましたが、今は一目でわかるようになりました。学校司書の濱谷さんは「リニューアルやシステムの導入などを行うたびに利用者が増え、学校図書館がにぎわっています」と生徒が図書館に関心を持つことを嬉しそうに話していました。



また、学習センターとしての学校図書館活用も多くなり、課題に関する資料を探し、調べてまとめるといった学習に取り組む学校が増えて

きています。蔵書管理が円滑になったことにより、学校司書は生徒が学習で必要としている本を探して集め、授業に準備することも簡単にできるようになりました。竹中教頭は「インターネットにはインターネットの、本には本の良さがあるので、多くの子どもたちに学校図書館を活用してもらえようしていきたい」と話していました。

時を刻め、青春の歌声
 ～小中連携による音楽祭～
 大和市立鶴間中学校

10月23日（金）、鶴間中学校では、林間小学校の6年生を招待して音楽祭が行われました。この取り組みは、小中連携の一環として行われているものです。6年生が、中学校に親しめるよう、十数年前から行われています。

今回の音楽祭に向けて、生徒会の役員が事前に小学校に出向いて、歌の練習を行い、準備を進めてきました。



当日、ステージには今年のテーマ「時を刻め、青春の歌声（メロディー）」が掲示され、その周りを囲むように、各クラス曲をイメージしたポスターが並んでいました。開会が近づくと大勢の保護者が見守る中、中学生が入場してきました。

全校生徒による発声練習が始まると、会場の空気が歌声に導かれるように一つにまとまりました。その後、各クラスが順にステージに上がり、

歌声を体育館中に響かせました。特に3年生の歌声からは、「中学校最後の音楽祭」という思いが伝わってきました。そして、Ⅱ部の「ふれあい合唱の部」が始まりました。各学年合唱の中でも3年生の学年合唱にはアンコールがかかるほど、聴いていた小学生は「歌い方が素晴らしい、心に残った」と感想を話していました。合唱の間には、生徒会による寸劇や教職員による合唱があり、会場を和ませてくれました。

最後にいよいよ小・中学生全員による合唱「Be i e v e」となり、3年生はすべての力を出し切るように、1、2年生は新しい仲間を迎え入れる先輩らしく、小学生は、中学生の素晴らしい歌声に込めるように、それぞれが心を込めて歌っていました。会場にいる全員がまさに同じ時を刻み、青春のメロディーを響かせていました。



企画を担当した生徒は「全力で作り上げることができて満足です」「小学校と中学校の絆がつながりました」と、達成感に満ちた表情で語っていました。

科学の心を養うために
 ～理科体験～
 大和市立福田小学校

10月30日（金）、福田小学校の学校へ行こう週間において、理科体験が行われました。これは、学区に住いのボランティアの理科支援員、東海林先生が中心となり、子どもたちに科学の不思議さ、楽しさを伝える取り組みとして行ったものです。国立博物館から取り寄せた岩石標本をルーペや顕微鏡を使って観察できるコーナーや、光の不思議を体験できる小さな博物館に変わっていました。



休み時間、子どもたちは理科室に集まり、それぞれに目を輝かせながら向かっていました。ピョンホールカ

メラを手にとった子どもは「外の木が見えるよ」「なんで逆さまなの」と言いながら、映し出される像を不思議そうに見つめています。また、岩石標本を手にとった子どもは「校庭にある石と同じだ」「どれが一番



てあげる姿もありました。子どもたちは「理科体験ではいろいろなことを詳しく教えてもらえる」「不思議なことがたくさんあっておもしろい」と話していました。



福田小学校では理科体験のほかに、おもしろ実験教室も開催されています。また、高学年を中心に科学検定を紹介し、東海林先生の協力により、実験・観察を通してその対策の指導なども行われています。「子どもたちが科学を楽しんでくれるのが嬉しいので、これからもいろいろなことをしていきたい」と先生は話していました。これらの取り組みを通して、科学者の卵がたくさん育っているようです。

古代の人の気持ちを知ろう
 ～埴輪野焼き体験～
 大和市立大和東小学校

10月20日（火）、大和東小学校の6年生が、総合的な学習の時間「大陸とのつながりを探ろう」の一環として、粘土で製作した埴輪の野焼きに取り組みました。組まれた木材の周りに、1ヶ月陰干しした埴輪を並べると、子どもたちからは「古代にタイムスリップしたみたいで、わくわくする」「キャンプファイヤーみたい」という声が上がりました。



大和東小学校では焼き物の焼成はこれまでで専門業者に依頼していましたが、しかし、焼き物がどのようにできるのか、体験を通して学ばせたい、子どもたちにモノづくりの楽しさを感じてほしいという思いから、6年担任の吉田総括教諭が中心となり、（株）ときわ堂の相原さんの協力を得て実現しました。

木材に点火されると、子どもたちは落ち葉をくべたり、端材を入れた

りと夢中で作業に取り組んでいました。温まってきた埴輪を手で向きを変えながら、徐々に火に近づけていきます。最後の仕上げとして、勢いのある火の中で埴輪を焼きました。



わ高く立ち上る様子を見て驚いていました。焼き上がった埴輪を見て「昔の人はこんなに時間をかけて作業していたなんて我慢強いと思う」「熱くて大変だったけど楽しかった」「ほかの物も作ってみたい」と感想を話していました。

現在、各学校の周囲は住宅地となっていて、野焼き体験は難しくなっています。大和東小学校では、田畑や川に囲まれた立地を生かし、このような活動が行われま



高校生との交流
 ～給食交流会と英語教室～
 大和市立南林間小学校

南林間小学校では20年以上前から隣接する県立大和西高等学校と様々な交流が行われてきました。今年度は給食交流会と、外国語教育に力を入れている大和西高等学校の特色を小学生に伝えるものとして、E.S.S.部員による英語教室が実施されました。

まず、11月5日（木）、高校生が5年生の3クラスに分かれて入り、給食交流会が行われました。



給食の準備が整い食事が始まると、高校生は口々に「懐かしい」「久しぶりに食べたよ」と給食を美味しそうに味わい、「どんな遊びが流行っているの」「どんな勉強が好き」と小学生に話しかけていました。食事前は緊張していた5年生も徐々に話しやすくなってきたようで、「高校はおもしろいの」「勉強は難しい」と質問を返すなど、会話が弾んでいました。

昼休みには5年生が高校生を誘い、外で鬼ごっこをするグループや教室内で遊ぶグループに分かれ、他の学年も加わり、にぎやかに交流していました。鬼ごっこをしていた高校生は、「小学生の体力はすごい」「自分もこんなに元気だったのかな」と言いながら、息を切らして小学生を追いかけました。一緒に体を動かすことで、さらにお互いの距離が縮まったようです。



一週間後の11月12日（木）に実施された英語教室では、給食交流会の効果もあり、高校生も小学生も打ち解け合い、楽しく活動できました。5年



担任の川崎教諭は「事前に一緒に遊んでいたので、お兄さん、お姉さん」とより楽しく英語による「コミュニケーションができたようです」と話していました。

おらが学校
地域の教育力に
支えられて

大和市立林間小学校

林間小学校では、毎年、自治会を中心とした地域の方を体験学習のゲストティーチャーに招いて、様々なことを教えていただいています。

11月12日(木)に行った1年生の生活科「昔遊び」では、竹馬・缶ぼっくり・凧揚げ・コマ回し・はねつき・おはじき・あやとり・けん玉・竹とんぼなどの昔の遊びを丁寧にわかりやすく教えていただきました。

子どもたちにとつては初めての遊びが多く、最初はとまどい、緊張していましたが、難しい遊びでも、少しコツをつかんでくると、「見て、見て」と嬉しそうな声をあげていました。



教えてもらったあやとりやけん玉は、この学習の後には必ず、クラスで大流行します。「お正月に家族みんなでやってみよう」という声も毎年聞かれます。

また、11月16日(月)・17日(火)に行った3年生の社会科「昔のくらし」では、ゲストティーチャー



から七輪の使い方を教わりました。炭や木の組み方、風の送り方など、一緒に活動しながら、なぜそうするのかという説明を受けたり、昔の道具の良いところ、大変なところを聞いたりしました。

上手に火が回り、お餅がこんがり焼き上がると、子どもたちは「うちで食べるよりもおいしい」「丁寧に教えてもらって、とても楽しかった」と満足した様子で話していました。一つのグループに一人、もしくは二人のゲストティーチャーがついてくれたおかげで、火傷をする子もなく学習を行いました。

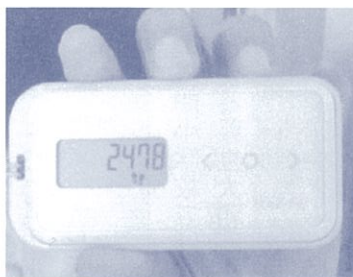
地域の方からは「私たちが元気をもらっています」「教えてあげた子に道で会つと、挨拶をしてくれて感心しました」というありがたい言葉をいただきました。地域の方々から学ぶ子どもたちの姿を見ると、改めて学校は子どもと地域を結ぶ大切な役割を担っていると感じます。

これからも、学校や家庭だけでは学ぶことが出来ない行事や体験学習などを、地域の方々に協力していただきながら続けていきたいと思っています。

自分の体を知り、健康を管理する
健康・体力づくりの実践研究
大和市立大野原小学校

近年子どもたちを取り巻く環境の変化により、のびのびと体を動かせる場所が減り、外で遊ぶ機会も少なくなってきました。そのよな中、文ヶ岡小学校と大野原小学校では、「子どもJOY!JOY!プラン健康・体力づくり実践研究」に取り組んでいます。そのうち、大野原小学校では、横浜国立大学森本教授、立教大学石渡准教授の指導のもと、(株)タニタの協力を得ながら、子どもたちが自分の体や運動習慣について理解し、関心を高め、実践力を育てるための研究に取り組んでいます。

朝、登校してくると、子どもたちは活動量計を首からかけます。活動量計には個人のデータがあらかじめ入力されており、日々の歩数や運動量が蓄積されていきます。授業中、休み時間、給食のときも携帯します。



子どもたちは「はじめは面倒だったけれど、慣れてきたら気にならなくなつた」「どれだけ歩

いたか友だちと比べるのがおもしろい」と話していました。

運動量以外にも、身長、体重や筋肉量なども定期的に測定しています。11月24日(火)は、5年生の測定日でした。測定結果は一人一人の活動量計に転送され、データを見た子どもたちは「身長が伸びたら体脂肪率が下がった」「毎日の歩数が増えたら筋肉量が上がった」と言いながら、自分の体の変化に関心を持っていました。また、サッカー選手などのアスリートの筋肉量や体脂肪率について友だち同士話している姿も見られ、体についての関心が高まってきました。

5年担任の富樫教諭は「今日は歩数が少ないから外に出ようなどといった声を聞くようにもなり、子どもたちが自分の運動量を意識し始めました」と話していました。実践研究に取り組んでいる成果が表れてきているようです。



「まなびやま」とは、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。
〈お問い合わせ〉大和市教育委員会
指導室 26005210 教育研究所 26005213